

いざ災害！わが身わが命は自分で守る

【支援金確定額：104,800円 支援率：64.44%】

取材日：平成24年（2012年）1月28日

■どのような活動をされていますか？

今後30年の間に首都圏で大地震が起きる可能性は70%を超えています。災害が起きた時には、人命をいかに守り救助するか、が求められます。専門の救助隊員を待つだけでなく、地域が丸となって地域住民と助け合う姿勢が重要です。

船橋SLネットワークでは、防災意識向上と災害が起きた時に何をすればいいか、倒壊家屋からの人命救助や応急手当の方法、避難所運営など、公民館等での講習を通して伝える活動を行っています。



■支援金をどのように活用されますか？

心肺蘇生法で使う器具やロープなど、実際の講習で使う用具に支援金の大部分を充てています。

防災の方法は口ですべてを伝えることができません。資料を併用して伝えれば、復習をすることもでき、災害が起こった時に「忘れて実践することができない」という事態を防ぐことにもなります。支援金は研修で配布する資料の印刷製本費にも活用しています。

また講師への謝金や、会議室、公民館などの会場使用料にも支援金を活用しています。



■今後の活動の抱負を教えてください。

市民の皆様が、自分達の地域で今後どのような災害が起きるであろうかを考え、いかにして、自分の命を自分でまもるか、近隣の方々への支援としてなにをしたらよいか等を様々な角度から身につけていただきたい。

このような事を伝えるために、さらに地域に溶け込んで一緒に勉強して行きたいと考えています。また、我々で主催する市民防災講座を今年も開催したいと思っています。

～取材を終えて～

松が丘公民館で行われた、倒壊家屋からの人命救助と家具の転倒防止についての講習の様態取材しました。倒壊家屋からの救助では、実際の災害の現場を想定して、「救助に使える道具が何もない」状態から、自分の頭で、早く・確かに・安全に救出することを考え行動する実習が行われ、住民と協力する大切さと協力して助ける時は意見調整が必要であることを学びました。転倒防止については、「災害に強い家建ててもらおう」だけでなく、知恵と工夫で自ら強い家に「作り替えていく」ことを、住民それぞれが行わなければならないと感じました。

一回講習を体験して終わり、というのではなく、継続的に防災訓練を地域単位で続けていくことが、自分の身と大切な人の身を守るためには必要であると考えました。

■関わり先（連絡担当者）：代表 片桐 卓（かたぎり たかし）

TEL：047-474-7685

E-mail：katagiri-sl@silk.ocn.ne.jp